

平成27年度  
第1回 温海地域振興懇談会  
会議録（概要）

期 日：平成27年6月26日（金）  
場 所：鶴岡市温海庁舎6階大会議室

## 平成27年度 第1回温海地域振興懇談会 会議録

- 期 日 平成27年6月26日（金） 午後1時28分～午後3時37分
- 場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 出席委員 奥井厚委員、佐藤満也委員、佐藤清八郎委員、若松邦彦委員、小田正宏委員、三浦喜一郎委員、佐藤美代子委員、佐々木真人委員、粕谷明委員、佐藤真紀子委員、本間加知子委員、五十嵐正直委員、 12名
- 欠席委員 大井喜助委員、菅原久継委員、伊藤貢委員 3名
- 市側出席者 <温海庁舎>  
温海支所長 鈴木金右エ門、総務企画課長 三浦市樹、市民福祉課長 石塚みさ  
産業課長 佐藤光治、温海建設事務室長 佐藤伸一  
総務企画課課長補佐（兼）総務地域振興主査 五十嵐浩一  
総務地域振興専門員 本間由縁  
<本 所>  
地域振興課地域振興専門員 齋藤芳、地域振興課専門員 前田哲佳
- 次 第 <辞令交付>
1. 開 会
  2. あいさつ
  3. 委員紹介
  4. 会長・副会長の選出
  5. 報 告  
(1) 温海地域振興懇談会の内容について
  6. 協 議  
(1) 平成27年度予算及び主要事業の概要について  
(2) 温海地域振興計画について  
(3) 温海地域の重点課題について  
(4) その他
  7. 閉 会

《委嘱状交付》

[温海庁舎支所長より各委員に委嘱状の交付を行った。]

## 1. 開 会

市三浦総務企画課長

平成27年度第1回温海地域振興懇談会を開会いたします。開会にあたりまして、温海庁舎鈴木支所長よりご挨拶申し上げます。

## 2. あいさつ

市鈴木支所長

みなさんこんにちは。本日は公私共にお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。そして、ただいま委嘱状を交付させていただきました。どうぞよろしくお願ひしたいと思います。さて、九州南部の方では集中豪雨等で大変な状況であります。東北地方、北海道では雨が非常に少ないという事で心配されているところでございます。予報によりますと明日、明後日あたりが雨の予報も出ているという事で、消防の操法大会もあり心配される所ですが、まずは大きな災害にならないように祈っているところでございます。

さて、皆さまよりは日頃より市政全般に渡りご支援ご協力賜りまして厚く御礼申し上げます。この地域振興懇談会設置にあたりまして、その内容につきましては後ほど担当の方で報告させていただきますけれども、私からも少しお話させていただきますと、これまで合併以降法律に基づいた地域審議会を設置してご審議いただいて参りました。この地域審議会の設置期間が10年ということで、本年の3月で終了しております。これまでの地域審議会に代わって各地域振興の推進にあたりまして、幅広い視点での意見交換や議論を行い、今後の市の取組みの方向性や活性化策を検討するにあたり、ご意見を伺う機関として今年度より新たに地域振興懇談会を設置いたしましたところでございます。委員の選出にあたりましては公共的団体等からの選出、あるいは推薦をお願いし、本日お集まりの委員の皆様から就任いただいたところでございます。ここで、後ほど協議の中で予算、事業の説明させていただきますけれども、温海地域の課題等につきまして若干お話させていただきますと、今、全国的な課題となっております人口減少の問題があります。鶴岡市においても特に山間地を有する朝日、温海地域の人口減少が顕著になっているというところで、各集落でも構成員あるいは後継者不足による事業展開の厳しさ、あるいは住民負担の増大が課題となっている状況であります。これらの人口減少に伴いまして、後ほど温海地域の重点課題でもご説明いたしますけれども、コミュニティと自治会のあり方、あるいは高齢化社会における各世帯にマッチした地域づくり、農林水産業、観光の振興のあり方、そして生活の基盤ともいえる道路等の整備の促進といった様々な課題があり、これらの課題解決に向けた取

り組み、あるいは事業の推進にあたりまして、皆様からご意見をいただきたいと考えております。

このように温海地域として様々に変化している状況下において、地域づくりはどうあればよいか、それらの視点に立って一緒になって課題解決に向けて進めていきたいと思っております。この後、担当の方から色々説明させていただきますが皆様よりご協議いただく事を予定しておりますのでよろしくをお願いします。

結びに、今日もはじめじめしておりますけれども、時節柄体調管理には十分お気をつけていただいております。本日はよろしくをお願いします。

### 3. 委員紹介

[三浦総務企画課長より別紙名簿により委員の紹介及び市職員の自己紹介を行った]

### 4. 会長・副会長の選出

市三浦総務企画課長

会長・副会長の選出に入りたいと思います。

鶴岡市地域振興懇談会設置要綱第5条の規定によりまして、会長及び副会長1名を置く事になっておりますが、この会長、副会長の選出につきまして委員の皆様にお諮りいたします。

市鈴木支所長

今、総務企画課長からあったとおり、設置要綱の中で会長、副会長については委員の互選によるという事になっておりますけれども、皆さんよろしければ事務局側の提案でご承認いただきたいと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。

委

異議なし。

市鈴木支所長

それでは会長に温海地域自治会長会会長の奥井厚委員、副会長には出羽商工会温海支部代表理事の佐藤満也委員をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

委

異議なし。

市鈴木支所長

ありがとうございます。それでは会長に奥井厚委員、副会長に佐藤満也委員と決定させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

会長には会長席の方に移動をお願いします。

市 三浦総務企画課長

今後の進行につきましては要綱第6条の規定によりまして、会議の議長は会長が行うことになっておりますので、奥井会長からよろしくお願ひしたいと思ひます。

委 奥井会長

先程も支所長が話しされましたとおり、少子高齢化時代に入り、課題が多い中大役を引き受けるという事は身の引き締まる思いをしております。各委員の皆様より活発なご意見をいただきながら所期の目的にありますとおり、地域振興に資する温海地域振興懇談会になりますようお願いしましてあいさつといたしたいと思ひます。大変ご苦勞さまでございませぬ。

## 5. 報 告

委 奥井会長

(1) 温海地域振興懇談会の内容について

次第に沿って進めさせていただきます。(1) 温海地域振興懇談会の内容について事務局より説明をお願いします。

市 五十嵐総務企画課  
課長補佐

この地域振興懇談会につきましては今年度初めて設置されるということですので、その内容について説明させていただきます。

初めに、この会議の内容については録音させていただき、後程会議録を調製させていただきます。その後委員の皆様には発言内容の確認いただいた後、市のホームページ上で公開させていただきますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

※資料説明 (五十嵐総務企画課課長補佐)

委 奥井会長

温海地域振興懇談会の内容について説明がありましたが、委員の皆様から質問がありましたら発言をお願いします。

ただいまの説明でおおよそ理解されているとは思ひますので、ないようでしたらこれで報告を終わりにいたしたいと思ひます。

## 6. 協 議

委 奥井会長

(1) 平成27年度予算及び主要事業の概要について

続いて協議に入りたいと思ひます。

協議題(1)から(3)までありますが、関連がありますので事務局より一括で説明をお願いします。

※資料説明 (予算：三浦総務企画課長)

(主要事業：各課・室長)

(振興計画：五十嵐課長補佐)

(重点課題：各課・室長)

〔委〕奥井会長

はじめに、(1)平成27年度予算及び主要事業の概要について、委員の皆様からご質問ご意見をいただきたいと思います。何かありましたら発言の方よろしくお願ひします。若松委員どうぞ。

〔委〕若松邦彦委員

主要事業4ページの37番について伺いたいと思います。豊かな海づくり大会について、具体的に放流ということが実施されると書いてありますが、普通に考えると魚を放流するのかなと思うのですが、魚の種類は決まっているのですか。

〔市〕佐藤産業課長

3種類の魚を海に放流するということに決まっているのですが、今資料を持ってきておりませんので、後ほど正式に報告させていただきます。

〔委〕若松邦彦委員

3種類の魚なのですね。天皇皇后両陛下が放流されるのですか。

〔市〕佐藤産業課長

既に場所も想定されていまして、鼠ヶ関漁協の市場から入って更には奥に行くとも岸壁が突き出していますが、その荷捌きをする所からちょっと奥に行った所から外に向かって放流します。

〔委〕若松邦彦委員

分かりました。ありがとうございます。それから、リハーサルが9月19日となっていますが、この時も放流されるのですか。

〔市〕佐藤産業課長

その時も本番さながらにやる予定をしております、天皇陛下の代わりを県知事が務めるという予定になっています。

〔委〕若松邦彦委員

わかりました。あと、市の魚制定委員会という事ですけども、旧温海町には町の魚ってありましたか。

〔市〕佐藤産業課長

クロダイです。

〔委〕若松邦彦委員

そうですか。投票用紙があるという事ですけども、そのクロダイを推奨する事も可能なのですか。

市 佐藤産業課長 可能です。クロダイ、トラフグ、ヒラメ、サクラマス、ベニエビ、マダイ、マダラ、ハタハタ、クチボソガレイ、ズワイガニ、この10種類を実行委員も含めて選定委員を決めて、これだったらどれでもふさわしいだろうという候補を挙げて人気投票という事にします。

委 若松邦彦委員 締切りはいつですか。

市 佐藤産業課長 7月21日が応募の締め切りでございます。

委 若松邦彦委員 わかりました。全市で投票するのですか。

市 佐藤産業課長 そうです。

委 奥井会長 今、豊かな海づくり大会についての質問が出ましたけれども、他に何かご意見ありますか。佐藤副会長どうぞ。

委 佐藤満也副会長 日沿道の絡みですが、進捗状況も含めて何年くらいで完成するのかという状況が全然出ていないものですから、その辺はまだはっきりは出来ないと思いますが、だいたい目安としてはどうなのだろうかなと思います。

市 佐藤建設事務室長 今年度から確実に地元設計協議に入ると思います。今のところ市道や林道の機能保障について市の段階で協議しています。今後地元の皆さんとの協議をお願いすることになる予定です。国の方では順調にいけば年度内に用地買収に着手したいという所までいっています。完成までに何年ぐらいかという事は国の方ではっきり言いませんので、私の方では答えられないのですが、通常は事業着手してから10年といわれていますけども、それをいかに短縮できるかが我々の課題だと思います。

委 奥井会長 はい、その他ありませんか。佐藤委員どうぞ。

委 佐藤美代子委員 40番のしなの花を活用したプロジェクト事業とありますけれども、香水とかお茶となっていますが、あつみ温泉でバラ香水とお風呂に入れる入浴剤とか前に作りましたけれど、そういうのは拡大されているのかどうか。赤かぶの食べ方という事で、お菓子とか色々お金をかけてプロジェクトを組んでいましたけれども、そういう効果というものは出ているのでし

ようか。

市 佐藤産業課長            そういった名を知られたようなものの経済効果ですとか、地域振興に寄与している実績を把握していますかというご質問でしょうか。

委 佐藤美代子委員            はい。

市 佐藤産業課長            今、赤かぶあるいはバラの効果につきましては、業者の方でどういった状況なのかまでは残念ながら把握していない状況でございます。

委 佐藤美代子委員            バラの場合は、一応商品化になっていますけれども、赤かぶのゼリー、お菓子とか食物とか産業課でプロジェクトを組んで実施していましたが、そのお菓子とかは私達あまり見る事がないので、そっちの方の開発のようなのが目に見えないのですが、そういうのはどうでしょうか。

市 佐藤産業課長            おっしゃるようにそういった過去における研究ですとか調査というのはよく行政が関わって行うのですけれども、役所が加工場を作ってお菓子を売るという行為は役所の仕事ではないのです。それを商品にするという民間の力、あるいは民間の運動がないとせっかく研究調査まではいってもその先が途切れてしまう。これはよくあるパターンで、そうならないようにやはり民間の適切な事業者なりがそれを受け継いだりしていく事が今後の大事なことだと思います。

委 奥井会長                    はい、その他。佐藤委員どうぞ。

委 佐藤清八郎委員            今、温海にはあつみかぶという名産品があるわけですが、東京に山形県産品を扱った山形県のテナントがありますが、そういう所には出ているのですか。

市 佐藤産業課長            出ていると思います。

委 佐藤清八郎委員            他にも加工品みたいなものは、温海を売ろうという観点からすれば大いに出荷して温海の名前があがるような方向にもって行ってほしいと思います。

それと、日沿道の事なのですが、今鼠ヶ関に大きなパーキングが出来る予定になっているという事なのですが、まず温海の食、山の物か

ら海のものまでこういうものの加工品を含めて売り込むようなそういう事をやってほしいのです。ただ加工品を並べて道の駅しゃりんみたいな土産物品という形だけでなく、実際に温海地域の物を使った料理を提供する、その辺まで考えてほしいと思います。

市 佐藤産業課長

貴重なご意見として今後の新道の駅の構想に活かしていきたいと思えます。

委 佐藤清八郎委員

よろしくをお願いします。

委 奥井会長

その他何かありましたら。五十嵐委員どうぞ。

委 五十嵐正直委員

私の方からは23、24に関して、現在福の里や地域おこし協力隊という事で4名が木野俣集落センターに事務所を構えて活動していますので、若干の時間をお借りしまして報告申し上げたいと思います。

まだ、1ヶ月少ししか経っていないので、現在は地域に慣れる活動を一生懸命やっています。

今、福の里通信というものを毎月出すという事になっており、今日の託送に入ってきたもので、庁舎に現物があれば皆さんにお配り願いたいのですが、できるだけ地域の皆さんと一緒にやっていこうという事で考えております。

先程話があったように、今、地域の状況からみれば過疎が急激に進み、特に一人暮らしが多いものですから、高齢者が一人亡くなると一世帯減ってしまうという状況になってしまうので、少し地域の方々ではない、どっぷりそこにつかかった人でない、新たな目でみてもらって、地域起こしに協力をしてもらおうという事で進めているわけですが、やっぱり来てすぐ何かいい事を考えてやって下さい、人がどんどん来るような事をやって下さいと言ってもこれは無理な話で、一緒になって課題を与えながら地域の方々と一緒に活動していこうというふうな事で一ヶ月やってみました。今、だんだんそういうのが根づいてくるのかなというふうに思っています。

私どもの村づくりの関係で進めておりました地域医療の関係ですが、医者の方の田宮先生が亡くなり、福栄診療所がなくなってから医者がいなかったわけですが、お陰様で7月3日から金曜日、月2回、阿部医院の方から遠藤先生がセンターを拠点にして回ってくるという事で、往診を主体に色々やっていますし、それも地域おこし協力隊の力を

借りながら福祉関係で進めていきたいという事です。

これ以上だめだというふうに考えればだめなのですからけれども、少しでも人の力を借りながら、良いところを伸ばしていければ、まだ見込みはあるのかなというふうに頑張っておりますので、皆さんにも応援していただきたいと思います。毎月福の里通信を出そうとやっておりますので、是非参考にしていただければと思います。まず、私どもの地域に協力隊と推進委員を4名配置して下さいました事に対して御礼を申し上げたいと思います。

委 奥井会長

ありがとうございました。その他皆さんからご意見ありませんか。本間委員どうぞ。

委 本間加知子委員

具体的に何番という訳ではないですが、あつみ温泉で6月に第49回バラ園まつりが催されております。以前は予算もありましたので盛大な形で行われており大勢のお客さんがいらしてバラを見て帰られました。そのような歴史もあり、現在は大々的にはやっていないのですが、6月になるとあつみのバラ園が満開になることから、県内外からのお客様が大勢いらっしゃいます。そして中には高齢者の方もバラをわざわざ見に来るのですが、なんせ場所が階段をのぼって行くものから、よく知らない人から「バラ園は何処ですか」「駐車場は何処ですか」とよく聞かれます。でも、「バラ園は神社の階段をのぼって行かないと駄目なのですか」と言うと、「おばあちゃんを連れて来たのでそれは駄目なの」という感じで帰られたりもします。また、「車いすで入れるトイレはないですか」とよく聞かれますけれども、前の審議会でも柴田さんが福祉用のトイレという事をよく言っていたけれども、我が家でも「車いすで入れるトイレはないですか」と言われても、「すみません、残念ながらないのです」という感じでお断わりしました。じゃあどこにあるかと言われても、「道の駅あたりまで行かないとないかもしれない」という事で教えたりはしましたけれども、観光地でもありますし、ましてこれから8月にはせせらぎの能もあり、いろんな方のお見えになりますので、福祉トイレを一箇所ほしいなと思いますので、予算化していただければありがたいのですが。

委 奥井会長

はい、今の件で説明ありましたらお願いします。

市 鈴木支所長

ばら公園に限らず福祉トイレやバラ公園の階段についても前々から要

望があった中で、一度は構想としてはあがったのですが、今のところはそれが止まっている状況であります。その土地が神社有地ということもあり制限のある土地だという事がひとつあります。あつみ温泉地域をまず歩いて楽しいまちづくり、という事で、無電柱化事業等でかなり整備したという経過もあり、今事業としてはソフト事業で民間の活力をいかにあげていこうかというのを重点的にやっている中で、次にバラ園をどうするという課題は確かにあるわけですが、庁舎としては今、具体的な構想というのはないので、将来に向けて何かもっていければとは考えております。若松さんの方から何かあれば一言お願いしたいと思っております。

公衆トイレの関係についてはこれも前々からあるのですけれども、長らく現実に至っていないところなので、この辺も観光協会さんと知恵を出し合いながら出来れば、具体的にできればいいのではないかと考えております。市有地もなかなかない中で、じゃあどこだといいいのか、という所もあわせてこれも温泉自治会さんとか観光協会さんと連携しながらやっていかないと実現性というのなかなか難しいかなと思っておりますので、ご意見は前々からありましたし、改めてご意見を頂きましたので庁舎としても検討したいと思っております。

委 若松邦彦委員

私は4年ほど前からあつみ温泉街をバラの温泉にしたいという構想を掲げて、毎年少しずつバラの温泉にしていこうと色々バラを増やしていて、皆様のご協力をいただきながらやってきましたけれども、その間、たまたま鶴岡公園のバラを頂く事も出来ましたし、そんな事で少しずつあつみ温泉のバラを増やしています。今年の秋にですけれども県道沿いにフラワーポットが22ヶ所あるのですが、今、温海温泉自治会の女性会の方々が維持管理をしており、そこの約半分ぐらいを空けていただいて、その鶴岡公園から移植されたバラを下に移そうと思っております。については先程の車いすのこととか色々あるかもしれませんが、温泉街全体をバラの温泉にしようという構想を持っていて、車いすの方でも道路沿いでバラを見る事ができる、そういった形を考えております。インターネットで調べますと、温泉街にバラのある温泉街はまずないみたいなので、温泉の隣にあるというのは花巻温泉という所が6000株、それは県の植物園の中にあるという事です。今あつみ温泉では3000株ですが、私が地道に増やしてきた所が1500株位ありますので、実際には温泉街全体を入れると3000株プラス1500株と実際なっています。発表はしませんけれども、更に増やして行ってバラの温泉の街という事で個人的には発展させていければとは考えておりますので、現在の場所ではな

かなか車いすの方、高齢の方は難しいのは確かなので、下でも見れる様な形を考えていかなければならないと思っています。以上です。

委 奥井会長

時間もだいぶ押しておりますけれども、他に何かありますか。三浦委員どうぞ。

委 三浦喜一郎委員

山間部に住む高齢者の一人として申し上げたいと思いますが、先程から説明もありましたように、温海地域が大変高齢化率が高いという事で、高齢者をいかに社会参加出来るような状態にしていけるかというのは非常に重要な部分だと思うわけです。例えば、私どもの老人クラブとしては色々社会奉仕活動ですとか、レクリエーション活動ですとか、一般的な教養を含めてそれなりの事業を展開はしているわけですが、老人クラブは残念ながら全地域にありませんので、その他を含めてこの24番の福栄地域活性化事業、これについては産業活動、生産活動などで高齢者も加わる事のできる事業の一つではないかとみておまして、今資料などもいただきましたし、是非市としてもバックアップをして成功させて、福栄地区のみならず、他の山間部の方にもこれが波及するように要望したいと思います。

委 奥井会長

今の要望だという事ですけれども。何かありますか。

市 鈴木支所長

ありがとうございます。地域おこし協力隊は先程の説明で先行して旧朝日村で導入し、温海では今年からという事です。福栄地区の方でも最初は朝日と一緒にどうかという話もあった中で、まず自分達で色々検討してみるという中で、少し後になったという経過があるのですけれども、実際5月から入っていますが、先程五十嵐委員さんからあった通り、地域ではかなり刺激になっているのかなと思っていますし、私どもも地域おこし協力隊が来たのでその地域がすぐに元気になるという事でなくて、あくまでもその福栄地区の皆さんに刺激を与えてもらって、福栄地域に住んでいる人が元気になってもらって地域づくりを進めてほしいという事です。それが温海地域全体に広まれば私どもの願っている事ですので、三浦委員さんからあった通り、一つの温海地域でのモデルになっていますので、是非行政としても支援しながらこれを地域全体に活力がいきわたるようにして参りますので、皆さんの方から色々注目していただいて、ご意見などいただければと思っていますのでよろしく願いしたいと思います。

委 奥井会長

はい、その他ありませんか。佐々木委員どうぞ。

委 佐々木真人委員

先に行われました公民館運営審議会に出席の方は同じ事を申し上げるので大変申し訳ありませんけれども、1ページの温海さくらマラソンとトライアスロンについてです。さくらマラソンは1,700名、応援者も含めて1万人近い方があつみ温泉を賑わせていただいて、天気も良かったという事もあって無事終了いたしました。来月にはトライアスロン大会という事で地域の皆さんからご協力いただかなければならない、ボランティアで400名近い方の協力が必要だという事ですけども、今日の説明でもふれあいセンターの指定管理化というような事があったわけですけども、3月に出た文書に、30回まで積み重ねて開催してきた温海さくらマラソン大会とトライアスロン大会の事務局について、ふれあいセンターが指定管理になった時期に指定管理者へ完全移行という文言が出たわけです。東京マラソン、横浜マラソン、県内では山形市でも始めました。酒田マラソンも始めました。各地では市が先頭になって大会を開いていく中で、事務局を民間に移行するということは、民間活用、振興とかそういう言葉はいいのですけれども、今後規模を大きくしたいと思っていたところで、市長も先般の挨拶では駐車場5000台位まで止められるようなことが出来れば、という話がありました。今チップ制でやっておりますので10000人でも20000人でも大会運営は出来るのです。ただ、駐車場や林業センターという建物の関係もあって1700人台で止めているところですけども、今申した通り酒田や山形でどんどん積極的にやっていると、今事務局を民間に、ふれセン管理者に移行するとなると大変な事かなと思います。温海さくらマラソン大会も30回になりまして、本当にみんな頑張っていたいただいて、資金ゼロから竹下さんのふるさと創生で80万円の補助金がついてそれ以降、町、市の支援を受けてきた所ですけども、体協合併の時に、さくらとトライアスロンは生涯学習振興事業という事で補助金が出されており、羽黒の石段マラソンは観光から補助金が出ているという事で、体協合併の時に大会等についてどうするか全然協議もなかったですから今に至っております、今申した通りマラソン大会も各地で開催しておりますけれども、やはり市等が先頭に立って各地からお客様を呼ぶ振興事業としては素晴らしいものだなと考えております。これを、ふれあいセンターがどのような位置づけになるか分かりませんが、一コミセンの事業という形で進めてほしくない。鶴岡市をあげた事業として捉えて2つの事業を支えていただければと思っています。尚、先程の人口減少の中で30代、40代の転出も多いという事で、なかなか実行

委員会の若手が増えてこない、逆に減っている状況です。去年は開会式のスタッフが足りなくて開会式が出来ない、という事を実行委員会から言われまして、体協の幹部で開会行事をやったという経過もあります。もう一つは庁舎の人員体制ですけれども、100名を超える職員が70名まで半分近く減っている。人事交流で温海の方は本所に行ったり他に行ったり、他から温海にきているという事で、やはりそういう人の体制も変わってきている中、ふれあいセンターに事務局がおかれて市との交流がまるっきらないという事は絶対ないわけですが、その辺が希薄に先々なっていくのかなというところで、その辺のところをもう一度マラソンとトライアスロンの市としての置き場所と申しますか、捉え方を検討していただければと思っています。

委 奥井会長

はい、今の件で回答あればお願いします。

市 三浦課長

公民館運営審議会の議題になりましたけれども、時間の関係で尻切れになった感じでしたが、まず、さくらマラソン、トライアスロン大会については佐々木委員さんからも大会長としてご尽力いただきまして御礼申し上げます。今、トライアスロンの準備中という事で、終了後どちらも30回を記念するという事なものですから、区切りとして少し時間をかけて今後のもち方を検討するというふうになろうかと思えます。ただ、どちらも条件的にはエリアが限られておりまして、委員さんがおっしゃったように駐車場の問題ですとか、天気が悪い時のサポートですとか色々課題があるのも事実でございます。今後、実際運営されている実行委員会の皆さんが一番よく課題が見えていますので、そういった事をもう一度拾い上げて温海らしい大会と申しますか、今後どうするかはもう一度協議を進めたいと思っています。

ふれあいセンターの指定管理につきましては、市の行財政改革の実施計画でも運営の手法なりそういったもの見直しを求められている内容でありまして、もちろん市のコミセンとかそういった規模とは違う訳ですが、手法としてはまず似たようなものになります。現在受け入れる団体を準備中でありまして、この中に自治会長会、それから老人クラブ連合会、婦人会、芸文協、体育協会、スポーツクラブ、そういった関連団体から構成していただいて、その団体からふれあいセンターの施設の管理、貸館業務、それから従来公民館でやってきた生涯学習事業を担っていく。それはもちろん市の予算で100パーセントカバーするものでございます。それからさくらマラソン、トライアスロンの事務局の機能ですけれ

ども、事務局を移行するといっても市が全部手を引くわけではありませんので、それは行政の役割と団体としての事務局、実行委員会としての役割、この辺をもう一度整理する必要があるかと思えますけれども、その点をご理解いただきたいと思います。

市 鈴木支所長

若干補足的になりますけれども、さくらマラソン、トライアスロンが今年で第30回という事で、第1回を始めようとした時に、まずは地域を元気にしようという事で地元の青年の皆さんがそれぞれやろうという事で、それがここまで続いてきて、それぞれ地域に活性化を与えているわけですけれども、そのために、スポーツイベントというよりは生涯学習、地域の事業だという位置づけで温海庁舎としても特別枠としてもってきた所でございます。

当初は当然地元の若い人もいた中で、行政の分野、地元の分野という事で実施してきた中で、年々事務局職員が関わる仕事の量が行政に移行してきたという事実があって、担当している職員がそれぞれ2地区と4地区の地区担当職員がやっているわけですけれども、業務的には半年以上そのさくらマラソンとトライアスロンに関わっているという事からすると、やはり本来行政がもっとやらなければならない分野が少し省略といいますか、その分さくらマラソンとトライアスロンに関わってきたというのがここ何年かの経緯です。それから、職員も当然異動になるので、代わってきた職員がいきなり大会運営という事もあると、そうであるとすれば指定管理を担っていただく団体の中に専門職員を設けてもらって、そういう人から担当してもらえば経験も豊富になるし、それに対しても先程課長が言った通り行政が手を引くという事ではないので、地域の活力と合わせて大会運営をしていった方が大会運営もスムーズになるのではないかという事と、もう一つは行革もあるという事から今現在そのような考え方になっていますので、今30回大会が終わった後にそれぞれの実行委員の皆さんとじっくり協議する事にしていますし、来年からすぐそれを指定管理の職員に任せるという事に決まったわけでもありませんので、その辺は会長さんと当然協議する事になると思えますけれども、あわせてご理解いただければと思っています。

委 奥井会長

佐々木委員よろしいでしょうか。各大会終了後、十分検討していただきたいと思います。

その他、皆さんから。小田委員どうぞ。

回答する方もだいぶ長くなっているので簡潔に説明の方もお願いしま

す。

委 小田正宏委員

先程車いすという話が出ましたけれども、民生委員の方で連合会に身障福祉部会という会がございます、その研修会で車いすに実際乗っている方の講演をいただいたところで、車いすに乗っている人の気持ちを考えて、例えば道路や色んな歩道などが整備されていないという、実際車いすに乗っている方の意見がございました。そして身障福祉部会の研修会の中で車いすに乗せていただきました。中には乗ったという方もいらっしゃいましたし、初めて乗ったという方もいらっしゃいましたし、この車いすの不便さというのですかね、少しの段差でもガタガタするということが分かります。鶴岡インターの正面の通り、あそこはよそから来る方のちょうど出入りする所なのですが、あそこが特に不便だという話をなさっていました。あつみ温泉なんかで道路等など補修する場合、歩く人間でなくて車いすの人が通っても段差がないような、そういう所をできれば作っていただきたいという事で、先程の車いす用のトイレは本当に場所がないのだという話をしておりました。

昨日私は山形に行つてある方から、「どちらですか」と言われて「あつみ温泉です」という話をしたら、「足湯、なんで屋根ないのあそこ」とある人から言われました。「なんでだろのう」と話をしましたけれども、夏場の天気の良い時の日よけであったり、雨よけであったり、一つでもあれば入れるけれども天気が悪ければ入れないという話を昨日されました。ないのですか、と言われたら意見を言われまして返答にちょっと困ってしまいました。「よそだとみんなありますよ」と言われてそういう意見もらってきたところでございます。

委 奥井会長

今の件で回答ありますか。

市 佐藤建設事務室長

今の足湯の件ですけれども、鶴岡市では道路の真ん中に足湯を造ったわけです。その事については、当初公安委員会からこれは無理だよというふうに言われたそうです。ただ、ここのポリシーと申しますが、車優先の道路でなくて、あくまで人を優先させたいというポリシーの中でどうにか認めてもらったと聞いております。それで、これに屋根をつけるとなるとまた更に規制がかかってきて、当初無理だったのだなというふうに思います。今後のご意見を頂きながら出来るならばその辺は検討していきたいです。

市 佐藤産業課長

私が観光分野で知りえる限りでは、かじか通りのみちづくり、まちづくりを進める中で、アドバイスをいただいた堀先生という東大の先生がいますが、彼のポリシーとしまして60点、70点のまちづくりをするよりも100点のまちづくりをなささい。晴天の日に青空が望める足湯を目指すのが100点だと。1年間の数パーセントの雨の日に60点、70点のものをつくるより、100点を狙いなさいという事であえてかけなかったのだという事を口伝えに聞いております。

委 奥井会長

はい、だいぶ意見も出たようなので、他にないようでしたら。五十嵐委員どうぞ。

委 五十嵐正直委員

一つだけ簡単に。特産品開発の関係で少し申し上げたいと思いますけれども、先ほどありました香水とか入浴剤は、行政が開発したのではなくて、商工会の商業部会の方で作って販売しているという事です。行政で特産品開発というの、開発まではするのだけれども、じゃあそのあと誰が作るかという事になってくると、非常に公平だとかバランスだとかというのを考えると、それが商品化になるのが非常に難しい。むしろ佐藤満也委員からやってもらっている摩耶山だとか摩耶姫だとか、あのように各業界がやるものに支援していくようなシステムを考えてもらった方が商品開発としては進むのではないかと。例えば本間委員さんのお菓子屋さんが温海の特徴あるお菓子を開發する、そういう民間の人を支援していくというそういう形で特産品開発に向かっていってもらいたいと私は常々思っています。

うちの方の今の協力隊も来るとすぐ、どんぐりとわらびを塩蔵しています。秋になったら、何か辛かったり甘かったり、色んなもので味付けをして練習させようと思っています。そういう部分でもその支援をしていただければ非常に特産品作りも進むのではないかと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。民間が考えるような指導をしてもらおうという事です。

委 奥井会長

はい、ありがとうございました。本間委員どうぞ。

委 本間加知子委員

先程かぶらの商品開発の件を言っていましたけれども、何年か前にJAの方でかぶらのつゆをしぼって羊羹を試作した事があって、若干の間ですけれどもAコープで売っていたのを記憶していました。JAが業者に委託して作ったものではないかと思いますが。



市三浦総務企画課長

奥井会長、進行ありがとうございました。これもちまして本日の地域振興懇談会を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。お帰りの際は運転など気を付けていただきたいと思います。どうもありがとうございました。